

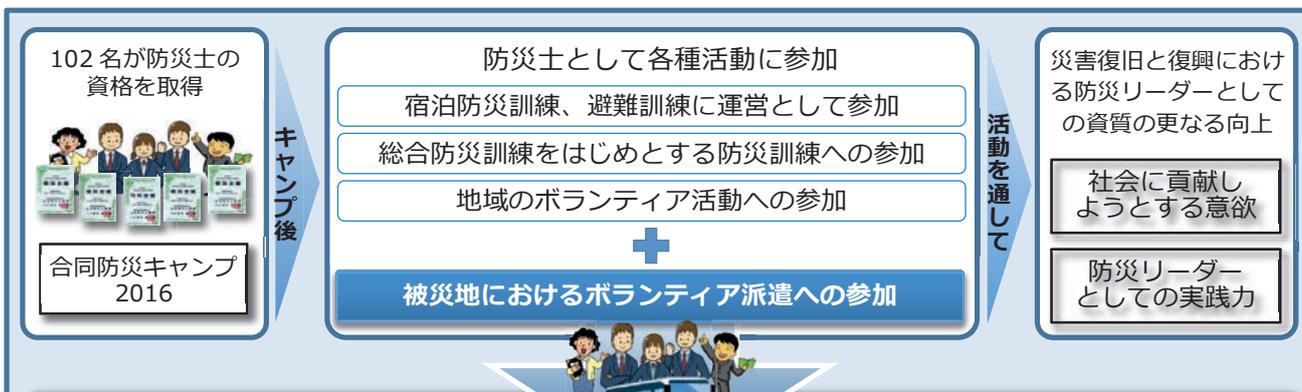
合同防災キャンプ参加者による取組報告

～合同防災キャンプ2016参加者による災害ボランティア派遣～

事業概要

合同防災キャンプ2016に参加し防災士の資格を取得された生徒及び教員は、その成果を生かし、学校や地域において様々な活動に取り組んできましたが、昨年度に実施したアンケートにおいて、今後、被災地においてもボランティア活動を実施していきたいと、更に実践の場を求める回答が多数見受けられました。

そこで、東京都教育委員会は、被災地への支援及び防災リーダーとしての資質の更なる向上を目的とし、合同防災キャンプ2016において防災士の資格を取得した生徒と教員で、参加を希望する方を対象に、福島県へのボランティア派遣を実施しました。



災害ボランティア派遣の概要

- ① しおりで参加者に示した目的
 - 災害ボランティアに積極的に取り組み、被災された方々及び地域の復興を支援する。
 - ボランティア活動等を通じた被災地の方との交流を通じて、被災地における課題を理解する。
 - 地域の防災リーダーとして、更なる資質の向上を図る。
 - 被災地におけるボランティアなど、災害支援、復興に自ら関わられる人材へと成長する。
- ② 参加者・人数
 - 参加を希望した都立高校生等（防災士認証者）6人
 - 参加を希望した都立高校等教員（防災士認証者）8人 計14人
- ③ 実施日程・期間
 - 平成29年10月20日（金）から同月22日（日）まで 2泊3日
- ④ 訪問場所
 - 福島県いわき市（ボランティア先等）、田村郡三春町（福島県環境創造センター）
- ⑤ 実施内容
 - 福島県いわき市でのボランティア活動
 - 福島県における被災状況の視察
- ⑥ 宿泊先・移動手段
 - いわき市内ホテル
 - 貸し切りバス（新宿発・着）
- ⑦ 事前説明会
 - 平成29年9月26日（火）

| | 10/20(金) | 10/21(土) | 10/22(日) |
|-------------------------------------|-------------------------------------|--|------------------|
| | | (午前) 復興支援ボランティア | (午前) いわき市周辺視察 |
| (夕方) 新宿集合・発 【貸切りバス】 現地着・宿泊 | (午後) 復興支援ボランティア (夕方) 被災地学習 | (午後) 福島県環境創造センター 【貸切りバス】 新宿着・解散 | |

事前説明会・一日目

事前説明会において、福島県から提供いただいた資料等を基に、福島県における「東日本大震災と今」について学習しました。

また、「福島学プログラム」による自己学習及び一日目のバス車内における学習として、災害ボランティアセンターや社会福祉協議会の役割、災害ボランティア活動の流れや注意事項などを学習し、今後、単独でも災害ボランティアに参加できる知識を身に付けました。



二日目 小名浜地区復興支援ボランティアセンター → いわき・ら・ら・ミュウ → 伊藤農園

二日目の朝は、宿泊先の古滝屋の里見 喜生館主より、被災時における状況等を伺った後、ボランティアセンターを運営している NPO 法人 ザ・ピープルの吉田 恵美子理事長より、ボランティアセンターでの講義やいわき・ら・ら・ミュウの視察を通して、震災当時におけるボランティアの受入れ状況、いわき市内の被災状況及びボランティアとともに進めている「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」について説明を受けました。



ボランティアとしては、台風の影響で強い雨が降る中、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」への支援として、コットンボールの収穫や台風に備えての水路整備を行ったほか、3月11日のメモリアルの間（いわき市久之浜の秋葉神社）で使用するコットンを使用したランプシェードの作成を行いました。



二日目 被災地学習

二日目の夜は、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの本多 環特任教授と NPO 法人 福島学グローバルネットワークの黒澤 文雄理事長から、それぞれ「福島の子供たちの状況と支援活動」、「震災学習」という題で講演していただきました。お二人の講演から、福島の問題、そして複合災害の影響を受けた福島の子供たちの状況等を学びました。



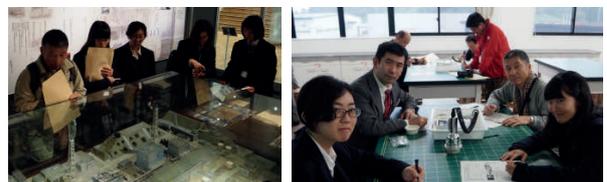
三日目 いわき市内被災地 → 福島県環境創造センター



三日目は、吉田理事長による語り部バスで、いわき市沿岸部の被災地を回りながら、被災状況及び原発避難の現状と課題について伺い、複合災害からの復興の難しさを学びました。

また、山六観光の鈴木社長から、6年が経過し、やっと話すことができたという悲惨な体験を伺い、まだまだ震災は終わっていないことを改めて実感しました。

いわき市を離れ、福島県環境創造センターでは、福島第一原子力発電所の模型等の展示により、原子力発電所における事故、そして現在までの環境回復と新たな環境の創造について説明を受けた後、実際に茶葉などの放射線量を測定することで、放射線について正しい知識を学習しました。



参加者の感想

| | |
|---|----|
| 地震や津波という自然災害だけでなく、福島第一原子力発電所の事故という人為的災害も含んだ複合災害であり、6年が経過した今も続いていることを改めて実感した。 | 生徒 |
| 福島の子供たちのことを学習し、中学生の時、福島から引越してきた中学校の友人を思い出した。どうして東京に引っ越してきたかは聞いたことはありませんが、私が想像できないほど、苦しい思いをしていたのではないかと、今になって振り返り、もっと上手く関わったのではないかと考えた。 | 生徒 |
| 今回、複合災害と自然災害との大きな違いや被災した子供の心の状況など災害ボランティアを通して、多くの事を学んだ。これからも積極的にボランティア等に参加し、多くの事を身に付けていきたい。 | 生徒 |
| 災害が起きた後のソフト面での対応について、ボランティアを通して学ばせてもらった。今回の経験を基に、学校に戻ってから新しい合同防災キャンプ教育の推進につなげてきたい。 | 教員 |